



◎理事會開催

十一月六日正午より丸ノ内日本俱樂部に於て理事會を開催し橋本副會長山田、中川(吉造)青山、谷口、中川(正左)後宮、牧の各理事及新居幹事外四幹事出席し昭和十年度歳計豫算中道路に關する經費査定に對し建議の件を審議し内閣總理大臣、内務大臣、大藏大臣に左の建議を提出すると並其提出方を橋本副會長山田理事に一任し午後二時散會した。

建議

政府ハ昭和十年度歳計豫算ヲ編成セラル、ニ方リ國防其他國勢伸張ノ爲ニ巨額ノ國帑ヲ要シ財政ノ難局ニ遭遇セラレ

慎重考慮セラル、所アルハ敢テ疑ハサル所ナリト雖モ仄聞スル所ニ依レハ大藏當局ニ於テハ道路ニ關スル經費ニ對シ殆ト之ヲ削除セラルルノ意アリト果シテ然ラハ國策上眞ニ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ翼クハ右經費ニ對シテハ深甚ノ考慮ヲ費サレ國勢伸張ノ基礎タル路政ノ變理ニ善所セラレンコトヲ望ム

理由

一、内務當局ハ土木會議ノ決議ニ基準シ併セテ現下ノ時局ニ鑑ミ道路ニ關スル經費ヲ定メ之ヲ要求スル所アリト聽ク惟フニ該會議ハ路政ニ關スル權威者ヲ網羅シ國民生活上ハ勿論産業ノ振興國防上ノ施設トシ必要缺クヘカラサルモノトシテ計畫ヲ樹テタルモノニシテ之カ實現ヲ期スルハ國民利福ヲ増進スル上ニ於テ最モ機宜ヲ得タル措置ナリト信ス故ニ之ヲ全ク削除スルカ如キ舉ニ出シカ産業ハ萎靡シテ國民ノ擔稅力ハ減耗シ國勢ノ維持上窘窮ヲ招來スルノ虞ナキヲ保シ難シ

二、農漁山村ニ對シテ未タ其疲弊ヲ救匡シ得サルノ實況ナ

リ然ルニ其事業ヲ廢止セラレンカ農漁民ヲシテ愈々益々
困憊ニ陥ラシメ其救匡ハ益々至難ニ赴クヤ敢テ言フ俟タ
サル所ナリ

三、現下道路改良工事ノ施業中ニ屬スルモノ鮮少ナラス然
ルニ之ヲ打切ラサルヘカラサルニ至ラハ既成ノ工事ハ其
效果ヲ奏スルコトヲ得サルニ止マラス地方民心ノ歸趨憂
慮ニ堪ヘサルモノアリ

四、更ニ我國道路ノ現状ヲ觀ルニ改良ノ事業未タ普及セス
シテ近代交通ノ要求ニ應スルノ構造ヲ有スルモノ甚タ少
ナクシテ自動車ノ機能ヲ完カラシムル能ハス爲ニ國民生
活ニ及ホス損失ノ多大ナルハ言フ俟タサルノミナラス産
業ノ發達國防ノ施設上缺如スル所甚大ナルノ實情ニ在リ
故ニ道路事業ハ今日之ヲ抑制スヘキモノニアラスト信ス
右本會理事會ノ決議ヲ經茲ニ建議候也

昭和九年十一月 日

道路改良會々長 水野鍊太郎

内閣總理大臣 岡田啓介殿

雜 報

建 議

道路政策カ國運ノ進展ト國民ノ經濟生活トニ緊密ナル關係
ヲ有スルコトハ敢テ多言ヲ須ヒサル所ニシテ輒近政府カ土
木會議ヲ設ケ之カ國策ヲ樹立セラレタルハ定ニ機宜ノ施設
トシテ本會ノ嘆美措ク能ハサル所ナリ

惟フニ昭和十年度ニ於ケル道路ニ關スル經費ハ必ラスヤ土
木會議ノ成果ヲ基準トシ併セテ農村振興ノ對策トシテ之ヲ
要求セラレタルヘント信スルモ財政當局ハ殆ント之ヲ削減
シ盡シテ餘サスト果シテ然ラハ眞ニ痛嘆ニ堪ヘサル所ナリ
庶幾ハ前陳道路事業ニ對シテハ克ク其ノ實現ニ邁進努力セ
ラレテ國民ノ經濟生活ニ資セラレンコトヲ切望ス
爰ニ理事會ノ決議ヲ經建議候也

昭和九年十一月 日

道路改良會々長 水野鍊太郎

内務大臣 後藤文夫殿

建 議

昭和十年度歲計豫算ノ査定ニ方リ貴省ニ於テハ道路ニ關ス

ル經費ハ殆ト之ヲ削除セラルルヤニ仄聞ス果シテ然ラハ國運伸張ノ爲寔ニ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ思フニ國防其他國勢進展ノ爲メ巨額ノ國帑ヲ要シ歲計收支ノ均衡ヲ計ルノ非常ナル難局ニ遭遇シ之カ對策ニ腐心努力セラレツ、アルハ毫モ疑ハサル所ナリト雖モ國利民福ヲ増進シ國力ヲ充實スヘキ基幹タル道路ニ關スル經費ニ對シテハ深甚ナル考慮ヲ拂ハレ路政ノ變理上善處セラレンコトヲ望ム

理由

- 一、内務當局ハ土木會議ノ決議ニ基準シ併セテ現下ノ時局ニ鑑ミ道路ニ關スル經費ヲ定メ之ヲ要求スル所アリト聽ク惟フニ該會議ハ路政ニ關スル權威者ヲ網羅シ國民生活上ハ勿論産業ノ振興國防上ノ施設トシ必要缺クヘカラサルモノトシテ計畫ヲ樹テタルモノニシテ之カ實現ヲ期スルハ國利民福ヲ増進スル上ニ於テ最モ機宜ヲ得タル措置ナリト信ス故ニ之ヲ全ク削除スルカ如キ舉ニ出テンカ産業ハ萎靡シテ國民ノ擔稅力ハ減耗シ國勢ノ維持上窘窮ヲ招來スルノ虞ナキヲ保シ難シ
- 二、農漁山村ニ對シテ未タ其疲弊ヲ救匡シ得ザルノ實況ナリ然ルニ其事業ヲ廢止セラレンカ農漁民ヲシテ愈々益々困憊ニ陥ラシメ其救匡ハ益々至難ニ赴クヤ敢テ言フ俟タル所ナリ
- 三、現下道路改良工事ノ施業中ニ屬スルモノ鮮少ナラス然ルニ之ヲ打切ラサルヘカラサルニ至ラムカ既成ノ工事ハ其效果ヲ奏スルヲ得サルニ止マラス地方民心ノ歸趨憂慮ニ堪ヘサルモノアリ
- 四、更ニ我國道路ノ現狀ヲ觀ルニ改良ノ事業未タ普及セスシテ近代交通ノ要求ニ應スルノ構造ヲ有スルモノ甚ク少ナクシテ自動車ノ機能ヲ完カラシムル能ハス爲ニ國民生活ニ及ホス損失ノ多大ナルハ言フ俟タサルノミナラス産業ノ發達國防ノ施設上缺如スル所甚大ナルノ實情ニ在リ故ニ道路事業ハ今日之ヲ抑制スヘキモノニアラスト信ス

右本會理事會ノ決議ヲ經茲ニ建議候也

昭和九年十一月 日

道路改良會々長 水野鍊太郎

大藏大臣 藤井眞信殿

◎全國交通網調査會

全國交通網調査會に於ては昭和八年四月一日創設以來の各問題に關し特別委員を擧げ調査研究を盡す所あつて其議をまとめ本年十一月一日内閣總理大臣を始め内務、大藏、鐵道、遞信、陸軍、海軍の各大臣へ左の建議書を提出した。尙本土、九州間連絡施設に關しては其調査審議を續行せり。

建議

本邦交通機關ハ逐年異常ノ進歩發達ヲ遂ケ我國文化ノ向上産業ノ振興ニ至大ナル貢獻ヲナシツツアリト雖其ノ分布密度及規模ニ於テ未タ以テ完シトイフヲ得ス殊ニ陸上及ヒ航空交通機關ノ整備擴張ニ關シテハ一日モ之ヲ忽諸ニ附スヘカラサルモノアリ

而モ輓近自動車運輸著シク發達シタルヲ以テ陸上交通機關ノ施設ニ關シテハ鐵道ト自動車トノ適否ヲ比較檢討シ之カ選定ヲ適切ナラシムルヲ要ス

又航空事業モ已ニ實用ノ域ニ入り極メテ重要ナル機能ヲ發揮シ益々之ヲ整備充實ヲ圖ルノ急ナルモノアリ斯ノ如ク新興交通機關ノ進歩發達ニ依リ各其ノ長所ヲ活用シ益々之ヲ助成ヲ圖ルノ必要生シタルノミナラス各種交通機關ノ連絡統制ヲ計ルノ必要モ亦愈々緊切ナルモノアリ

惟フニ交通ニ關スル現行法規ノ大半ハ十數年前ノ制定ニ係ルヲ以テ現時ニ比スレハ政策ノ對象著シク趣ヲ異ニスルニ至リ而モ其ノ主管ハ内務、遞信、鐵道等ニ分屬シテ連絡協調ヲ欠クノ憾ナシトセス仍テ此際特ニ緊密ナル調査研究ヲ遂ケ不怠不利ノ企畫ヲ更ムルト共ニ投下資本ノ重複ヲ避ケ國民經濟上最モ合理的ナル全國交通網ヲ設定シ諸般施設亦之ニ伴フヲ以テ國利民福ニ寄與スルヲ要ス

本會ハ如上ノ趣旨ニ基キ帝國鐵道協會、道路改良會、臺灣協會及日本交通協會ノ四團體共同シテ之ヲ研究調査ヲ目的トシ設置セルモノニシテ既往一年有半屢次會合ヲ重ネ慎重審議ノ結果左ノ成案ヲ得タルニ付清鑑ヲ賜リ度及建議候也

昭和九年十一月一日

全國交通網調査會會長 水野鍊太郎

記

(一) 現行鐵道敷設法ハ大正十一年ノ制定ニ係リ當時本邦自動車運輸ハ尙未タ幼稚ノ域ヲ脱セサリシモ爾來道路ノ改良、自動車ノ發達ニ伴ヒ本法中時代ノ要求ニ適セサルモノアルニ至レリ、仍テ政府ハ此際同法別表ニ定ムル豫定線路ヲ、添付別紙ニ記載セル趣旨ニ依リ(圖面參照)改正セラ

ル、ト同時ニ鐵道ノ急設ヲ要セサル區間ハ省營自動車ノ先行又ハ代行ヲ認容シ得ヘキ旨ヲ法文中ニ規定セラレムコトヲ望ム(圖面略)

(二) 從來省營自動車ノ運行ハ鐵道豫定線ノ先行又ハ代行ノ趣旨ニ出テタルモノ多キガ如キモ往々ニシテ他ノ趣旨ニ由リタルモノアリ爲メニ既設交通機關ノ營業發達ヲ阻害シ資本ノ二重投下トナルノ嫌ナカラシムル様留意セラル、ト共ニ今後ニ於ケル省營自動車路線ノ選定ハ特殊ノ場合ヲ除キ鐵道豫定線ノ先行又ハ代行ノ趣旨ニ限定セラレムコトヲ望ム

(三) 國道及府縣道ハ近年著シク改良セラレタリト雖今尙自動車ヲ運行シ能ハサルモノ尠カラズ之ガ改良ヲ要スルハ論ヲ俟タサル所ナルモ既設鐵道ニ連絡スル路線或ハ鐵道豫定線ニ代ルヘキ路線其ノ他重要ナル路線ニ就テハ其國道タルト府縣道タルトヲ問ハス自動車運行ニ適スルヤウ速カニ改良セラレムコトヲ望ム

(四) 本邦主要ノ飛行場ハ既ニ國際交通ノ要津タルノミナラス軍事及經濟上樞要ノ意義ヲ有スルニ到レルヲ以テ此際道路法中國道タルヘキ路線中ニ「樞要ノ飛行場ニ達スル路線」ヲ追加セラレムコトヲ望ム

(五) 鐵道船舶ノ連絡ハ比年港灣ノ修築ト相俟ツテ好果ノ觀ルヘキモノ尠カラズト雖内外交通ノ現勢ニ鑑ミ尙一層ノ整備ヲ要ス殊ニ近年自動車ノ急激ナル發達ニ對シ船舶自動車ノ連絡設備ヲ欠如セルモノアルハ不便不利尠カラス更ニ最近ニ於ケル航空事業モ亦急速充實ノ必要ニ迫レルヲ以テ政府ハ是等新興交通機關相互間ノ連絡ハ勿論自動車及飛行機ト他ノ海陸交通機關トノ連絡施設ニ付テモ一層機宜ノ處

置ヲ講ゼラレムコトヲ望ム

(六) 本邦航空事業ハ極メテ幼稚ニシテ今日ノ實狀ニ適セサルモノアリ政府ハ速カニ其ノ根本政策ヲ確立シ内地航空ノ充實ヲ圖ルト共ニ對外關係ニ於テモ急速航空路ノ開設ニ着手セラルヘキハ緊急中ノ緊要事項タリ、本會ハ慎重審議ノ結果左記航空路ハ最モ重要ノ線路ト認メタルニ付至急實現ニ邁進セラレムコトヲ望ム

(起點)

(寄航地)

(終點)

幹線

福岡

那覇

臺北

東京

仙臺、青森、函館

札幌

札幌

旭川、稚内

豊原

特殊幹線

東京

小笠原

南洋

大阪

北鮮

支線

東京

静岡、名古屋

大阪

大阪

岡山、廣島、宇部

福岡

大阪

鳥取

松江

東京

長野

新潟

大阪

福井、金澤、富山

長野

新潟

秋田

青森

福岡

熊本、鹿兒島、宮崎、大分

福岡

東京

水戸、仙臺、盛岡

青森

大阪

高松

松山

大阪

徳島

高知

旭川

帯廣、釧路

根室

國際線

日本

支那

日本

南洋

(又ハ印度)

◎關西道路研究會主催大阪東京間

道路調査自動車旅行

豫て關西地方で道路界に活躍してゐる關西道路研究會では去る十一月三、四日の休日を利用して三日間で大阪東京間に道路調査自動車旅行を舉行したが参加者五十名、盛大にして又意義深き催しであつた。先に尾張、伊勢兩大橋及び濱名湖橋の開通により東海道が貫通したので、本會に於ても東海道視察旅行を催し大に道路改良の機運を醸成する筈の處近畿大風水害に會し中止と爲てゐたが、恰度今回關西道路研究會により此旅行が敢行されたのは斯界のため大いに慶賀の至りに堪えない。

行程の大略は次の如きものである。

十一月二日 午前九時半、大阪市北區櫻宮大橋集合。十時出發、十一時京都着(京都會員參加)。正午、大津を経て瀬田着(晝食)。午後零時半瀬田出發、鈴鹿峠休憩、龜山、四日市、桑名を経て。午後三時半、伊勢大橋にて休憩。午後四時半、名古屋着熱田神宮參拜ガソリン補給。午後六時半 岡崎を経て蒲郡着、

常磐館泊

計 二四五軒 平均時速 三四軒

十一月三日 午前八時、蒲郡出發。午前九時半、豊橋を経て濱名湖着休憩。午前十一時半、濱松、天龍川橋を経て大井川橋着休憩。午後零時半、静岡着、晝食、ガソリン補給。午後一時半、静岡發、蒲原、沼津を経て。午後四時半、本箱根着、箱根權現參拜。午後五時半、小涌谷温泉、三河屋泊。

計 二三八軒 平均速度三一・八軒

十一月四日 午前八時半、小涌谷出發、宮ノ下、小田原大磯、藤澤を経て。午前十一時半、横濱晝食、ガソリン補給。午後二時、東京宮城前着解散。
計 一〇六軒 平均速度二六・五軒
大阪東京間軒數合計 五八九軒
使用自動車は關係官公廳のもの八臺と大型バス一臺とを

用ひ又試験車として貨物自動車一臺を専用しガソリン消費量とモビールの試験とを行つた。

本旅行の参加者は五十名であつたがその重なる顔振れは次の如くである。京都帝大(近藤、小林兩教授)。大阪帝大(前田教授)。名古屋高工(大崎教授)。内務省土木出張所(江守、門澤、兩技師、村山喜一郎氏)。京都府(中川土木部長、原田技師)。京都市(木村土木課長、關目、貝原兩技師)。大阪府(坪井道路課長、上床技師)。大阪市(福留土木部長、大村、中島、武宮技師、清水高速部長、橋本同次長)。神戸市(富田土木課長、奥中計畫課長)。尙途中各管内では名古屋土木出張所の千田、芥川兩技師上井三重縣土木課長、靜岡縣では木村土木部長、井關道路課長等が親しく案内の勞をとりつつ同道視察を遂げられた旅行参加者は何れも道路の専門家ばかりであるが、尙調査の精密を期するため左の七種の委員に委嘱し各分擔して研究をしたがその調査報告は遠からず發表する由である。

一、鋪裝道路調査(主査江守技師)

二、道路計畫、設計路幅勾配調査(主査近藤教授)

三、道路橋調査(主査大村技師)

四、道路、鐵道交叉に關する調査(橋本次長)

五、道路運輸狀況調査(村山氏)

六、道路と風景調査(木村課長)

七、自動車運輸試驗(前田教授)

特に七の運輸試驗については自動車の權威前田阪大教授が同大學の學生數名を指揮して行つたもので、その報告には期待すべきものがある。同會で調査した大阪東京間に於ける改築區間の籽數は次の如くである。

改築區間

一〇六、三〇五籽 一八・四%

改築鋪裝區間

一五〇、一四三籽 二六・一%

未改修區間

三二〇、〇五四籽 五五・五%

計

五七六、四九三籽 一〇〇・〇%

尙本旅行の實施にあつては同會幹事武宮大阪市技師の献身的努力に負ふ所が少くない。

土木職員一覽表 (昭和九年十一月十五日現在)

内務省土木局各長技監各課長

道路課事務官

局長	廣瀬久忠	
技監	青山士	
各課長	河道川路 新居善太郎 武井群嗣 雪澤千代治 谷口三郎 鈴木雅次 鈴木七郎 三浦七郎 主國道改良 第一技術 第二技術 主任	
近藤欣一	谷口松雄	藤村藤治

各府縣土木部課長、道路課長、道路並土木主事

(昭和九年十一月十五日現在)

府縣名	北海道 東 京 東 京 大 阪 神 戶 兵 庫 新 潟 崎 玉 群 馬 茨 城 栃 木 三 奈
土木部長	泊子源一治 金子幸太郎 中川周藏 三輪周藏 田邊良忠 吉岡計之助 川上國三郎
土木課長	長濱時雄 藤田保藏 西川義一 横山義三 春藤眞三 上村兼吉
道路課長	神保金衛 中村爲義 上井忠義 坪井豐彦 三宅秀太 山本廣一 福田弘
道路主事	北村奥松・和田清太郎 高澤義智・林田芳徳・坂倉聰・田村三郎・福澤善司 丹羽羽氏・行 河野徳太郎・田口高重郎・波若敏郎 望月隆治・徳田茂 阿曾實助 清野慶藏 西野芳雄 仁田爲治 青木信愛 川又辰三 淺香小兵衛(土兼) 眞田正一 眞井善十郎(土兼)
土木主事	芝田 孚 戸田廣次郎 藤井彌太郎・山田正弘 石村 芳夫 窪田國三郎 島上村 信 野上村 義 山本 義 深野小次郎 村田佐太郎

沖鹿宮熊佐大福高愛香德和山廣岡島鳥富石福秋山青岩福宮長岐滋山靜愛
兒 歌

繩島崎本賀分岡知媛川鳥山口島山根取山川井田形森手島城野阜賀梨岡知

坂本一平 山口十一郎 土岩肥憲二郎 木川村憲七郎

千竹城榊谷大岸河後菅上關 北北三荒杉淺丸木松上大 櫻兵飯
葉內戸井大島田合藤原谷 北北三荒杉淺丸木松上大 櫻兵飯
常領昭六七男 正季良柳新 谷川勝 原發榮次 山見悅長康節 野石 井藤磐之
岁八吉藏堅男 一清總二一造 伍嶸造二郎洋三命秋夫巖 三吉助

豐田哲夫 緒方虎之助 目後黑濤雄新 井小關坂正忠雄一

松吉谷鈴大森山堀平棚川吉武柳小吉榮岡岩村丹船吉岩赤藤齋星
浦村川木鳥山健次郎・市丸西彦 堀內正重 田橋義信(士兼) 川原義任 吉田耕造・安村正人 武廣類松 柳野德松 小西民之助 吉田竹次郎(士兼) 榮引幾馬(士兼) 岡切彦清一(士兼) 村野長太(士兼) 船野正久吉長六 岩島利忠晴(士兼) 赤木忠司(士兼) 藤田榮司(士兼) 齋田榮司(士兼) 星野安太郎

淺野 大塚利太郎 長谷川敏夫 吉田伊三郎 松久開五郎 佐家 谷垣光吉 和田理一郎(道兼) 橋本隆義 村上外饑作 岩城外饑作 利市庄作 東海林半三郎 川村庄五郎 阿部治英 近藤藤 安岡九十九郎 小林常治郎 神宮司 大石利平 鬼頭光一

○寄贈圖書紹介

○日本都市年鑑昭和十年用(東京市政調査會刊行)

東京市政調査會の編纂刊行に係る「日本都市年鑑昭和十年用」を同會より寄贈せられた、執いて見るに従前刊行に係るものに比し頗る内容を充實し一般市政を取扱ふ者に取つて有力な資料として十二分の價値を發揮することとなつた。例へば簡約を旨とした方針を改めて載録事項を増加し且内容の詳密なるを企てて居る。其調査の増加項目は鑿地保存及觀光優勝地施設、市會議員選舉の沿革的頭末の如き特に吾人の注眼を促がした點である、又昭和九年中に發生した前議會に於けず都市問題、都市計畫關係、國立公園の指定、東京市廳舎建設敷地問題、大阪市營バス問題、東京市電の同盟罷業、關西地方の大風水害等凡そ吾人の關心すべき案件を略説するに至つて其用意の周到なるを感ずる市政に關する有意義な文献たるは敢て一言を加ふるの要がない。頁數九一八、定價金五圓、特價金參圓(但特價期間は

昭和九年十二月三十一日限り)

○土木工學論文抄録(土木學會刊行)

土木學會に於ては其二十周年記念事業として中川吉造氏を委員長とし青木楠男氏外五十七名を委員に擧げて大正、昭和年間に於ける我國の土木工學に關する文献を調査し之を部間別に分類し抄録したものである。其資料は 道路の改良「土木學會雜誌」「土木業協會々報」「鐵道院業務研究資料」「土木建築雜誌」「内務省土木試驗所報告」「帝國鐵道協會々報」「鐵道時報」「滿洲技術協會誌」「土木工學」「工學會誌」「機械學會誌」「建築雜誌」「九州帝大工學彙報」「水利と土木」「都市公論」其他諸種の報告等に求めて殆んど遺す所なく委員諸氏の精勵努力と其忠實な心懸けの跡は一見してよく之を知られ得るので、實に土木工學の研究者は勿論土木界に取つては有益な資料と謂ふべき文献である。

○北原地方幹事死去 本會地方幹事島根縣土木課長北

原嶽氏は十一月二十五日死去せられた、哀悼の情に堪えず。